

平成28年度第1回流山市通学区域審議会会議録

- 1 日 時 平成29年1月30日（月）
午後2時～3時40分
- 2 場 所 流山市ケアセンター 第1研修室
- 3 出席委員 長岡委員、安蒜委員、田根委員、伊藤委員、清水委員
水嶋委員、荒木委員、井田委員、永元委員、小泉委員
香月委員、吉田委員、藤代委員
- 4 欠席委員 堀江委員、近江委員
- 5 事務局 小澤学校教育部長
学校教育課 山口課長、中野課長補佐、染谷係長
吉川管理主事、下出主事
- 6 議 題 (1) 平成28年度児童生徒数推計及び想定値について
(2) 小山小学校の通学区域について
(3) おおたかの森小中学校の通学区域について
- 7 傍聴人 なし

(伊藤会長)

それでは、ただ今から平成28年度第1回流山市通学区域審議会を開催いたします。はじめに、小澤学校教育部長から御挨拶をいただきます

《小澤部長挨拶》

(伊藤会長)

ありがとうございました。平成28年8月1日付けで、新たに小泉勲委員、香月俊委員が委嘱されましたので小泉委員、香月委員を紹介いたします。

《小泉委員自己紹介》

《香月委員自己紹介》

(伊藤会長)

続きまして、平成28年4月1日付けの人事異動により教育委員会事務局の職員が替わっておりますので自己紹介をお願いします。

《小澤部長自己紹介》

《山口課長自己紹介》

(伊藤会長)

会議の成立について御報告申し上げます。本日の会議は、委員15名中13名の出席、2名の欠席となっておりますので、委員の半数以上の出席ですので、流山市通学区域審議会条例第6条第2項の規定により、本会議が成立していることを御報告申し上げます。次に、事前配付させていただきました資料の確認をさせていただきます。審議会次第、審議会委員名簿と1から8頁の資料ですが、不足されている方は、お申し出ください。よろしいでしょうか。それでは、議題1「平成28年度児童生徒数推計及び想定値について」事務局から説明をお願いいたします。

(中野課長補佐)

学校教育課の中野です。よろしく申し上げます。

議題1「平成28年度児童生徒数推計及び想定値について」御説明させていただきます。

児童生徒数の推計と想定値の区分けについて、はじめに御説明いたします。推計は、平成29年度から31年度までの3年間とし、想定値は、32年度から34年度までの3年間としたところです。推計及び想定値は、平成28年4月1日の住民基本台帳登録者数を基に、土地区画整理

事業区域の今後の整備状況や未就学児の増減、指定学校変更、区域外就学、私立小中学校への就学状況等を踏まえて作成したものです。土地区画整理事業区域については、共同住宅をはじめとした建設計画など、不確定要素が大きく1年後の29年度と6年後の34年度の信憑性は異なりますことから、31年度までを推計し、32年度から34年度までを想定値と区分したものです。この推計と想定値は、流山市ホームページに掲載し、今後は、毎年作成する予定です。

配付資料のP1頁を御覧願います。各小中学校の児童生徒数の増減が大きい学校について御説明いたします。

児童・生徒数、学級数は、特別支援学級を除いた数で説明させていただきます。はじめに、流山小学校ですが、平成28年度856人、26学級ですが、児童数は、32年度には1,000人を超え、34年度に1070人32学級を想定しております。区域内では、土地区画整理事業が施行されていることから、ここ数年、児童数が、40から50人程度増加しております。児童数は、今後、数年は増加することが見込まれますが、一般住宅地でありますことから急増することはないと考えております。また、市役所南側に計画されていたマンション建設が、現在、事業計画の見直しをしていることから、計画が未定となっております。児童数が増加しますが、34年度の時点で、教室不足にはならないと考えております。

八木南小学校は、28年度198人、8学級ですが、区域内で土地区画整理事業が施行され、現在、マンション建設が進められ、児童数が増加することが見込まれ、34年度には、400人、14学級を想定しております。

新川小学校は、28年度433人、14学級ですが、今後、児童数が減少し、34年度には310人、12学級を想定しております。

東深井学校は、28年度715人、23学級ですが、今後、児童数が減少し、34年度には500人、16学級を想定しております。

鱈ヶ崎小学校は、28年度550人、17学級ですが、今後、児童数が増加することが見込まれ、34年度には、720人、22学級を想定しております。ただし、鱈ヶ崎小学校の区域の未就学児は、小学校に入学する前に転居等で減少している状況で、想定値の人数まで増加することはないと考えておりますが、今後も、住民基本台帳登録者数を注視して参ります。

西初石小学校は、近年、増加傾向にあり、28年度692人、20学級です

が、今後も児童数が増加することが見込まれ、34年度には810人、24学級を想定しております。

小山小学校、おおたかの森小学校については、(2)(3)で御説明させていただきます。

流山北小学校は、28年度684人、22学級ですが、今後、児童数が減少し、34年度には590人、18学級を想定しております。

南流山小学校は、28年度753人、24学級ですが、31年度には1,000人を超え、34年度には1510人、45学級を想定しております。区域内で、土地区画整理事業が施行され、建設されたマンションと建設中のマンションがあり、今後、児童数が増加することが見込まれることから、校舎を増築し、平成30年4月から供用開始する計画です。

次に、中学校ですが、東深井中学校は、28年度514人、15学級ですが、今後、生徒数が減少し、34年度には370人、12学級を想定しております。

八木中学校は、28年度291人、9学級ですが、今後、児童数が増加することが見込まれ、34年度には、390人、12学級を想定しております。

南流山中学校は、28年度533人、16学級ですが、34年度には620人、18学級を想定しております。南流山中学校は、南流山小学校の児童数の増加に伴い生徒数が増加する見込みですが、34年度の時点で教室が不足することはないと考えております。

おおたかの森中学校は、(3)で御説明させていただきます。

以上で、説明を終了いたします。よろしく御審議を賜りますようお願いいたします。

(伊藤会長)

事務局から説明がありました。御質問等がありましたらお願いします。

なければ、(2)小山小学校の通学区域について事務局から説明願います。

(中野課長補佐)

議題2 小山小学校の通学区域について御説明させていただきます。

小山小学校の通学区域は、東初石5丁目の一部、6丁目の一部、十太夫の一部、駒木の一部の区域となっております。区域内では、土地区画整理事業が施行され、児童数が増加し、平成27年3月には984人、29学級となりましたが、平成27年4月におおたかの森小学校が開校し、

児童数 663 人となり、一時的に児童数が減少いたしました。今後、児童数が急増することが見込まれております。

推計、想定値については、議題 1「平成 28 年度児童生徒数推計及び想定値について」で御説明させていただきましたが、もう少し、詳細に御説明させていただきます。小山小学校の児童数推計及び想定値は、平成 28 年 4 月 1 日現在の住民基本台帳登録者数を基に、これまで新市街地地区に建設されたマンションや戸建て住宅における、就学前及び就学児童の出現率を計算し、今後、建設が計画されているマンションや戸建て等の住宅用地にその出現率を乗じて、児童発生人数を算出し、推計したものです。

P 6 頁を御覧願います。28 年度の児童数は、819 人、26 学級ですが、小山小学校の推計及び想定値では、平成 29 年度は、985 人、31 学級、30 年度には 1000 人を超え 1170 人、36 学級に、31 年度は 1391 人、40 学級、32 年度 1580 人、45 学級、33 年度 1800 人、52 学級、34 年度には 1980 人、57 学級となり、児童数が 28 年度 819 人から 1980 人に、急増することが見込まれております。小山小学校は、児童数の増加が見込まれたことから、現在、校舎増築工事が進められ今年 4 月に供用開始となりますが、増築しても教室不足となることを見込まれる状況から、教育委員会では通学区域の見直しを検討しております。

見直しを検討する場合、隣接している小学校との境を見直すことになると思います。小山小学校に隣接している小学校は、八木北小学校とおおたかの森小学校になります。おおたかの森小学校は、小山小学校と同様に児童数が急増していますことから、八木北小学校との通学区域の見直しを検討することにしました。八木北小学校の児童・学級数は、平成 28 年度 641 人、19 学級です。想定値の平成 34 年度の児童数は、660 人 21 学級であり大幅な増加はない状況であると思われることから、八木北小学校との通学区域の見直しを検討しております。

P 7 頁を御覧願います。小山小学校と八木北小学校の通学区域の見直しについては、現在、工事が進められております都市軸道路を境に北側を八木北小学校、南側を小山小学校に見直しを検討しております。

通学区域を変更することは、児童の友人関係、学校生活及び地域コミュニティ等との連携にも影響がありますことから在籍している児童は、

小山小学校で卒業できるように考え、平成28年度児童数推計及び想定値から、小山小学校の受け入れできる状況を踏まえて、平成32年度に入学する児童から見直しをしたいと現時点では考えております。その場合の児童数は、P6頁を御覧願います。小山小学校は、平成32年度1480人、42学級、33年度1570人、45学級、34年度1630人、47学級と想定し、八木北小学校は32年度760人、23学級、33年度900人、27学級、34年度1030人、31学級になると想定しております。小山小学校は、通学区域の見直しをしても児童数が1500人を超える状況となりますが、小山小学校の児童数のピークは、平成34、35年度頃と考えており、児童数は、その後、減少すると考えておりますことから都市軸道路で通学区域の見直しをしたいと考えております。

教育委員会としましては、平成29年4月1日の住民基本台帳登録者数を基に、平成29年度の児童生徒数の推計・想定値を作成し、推計、想定値を踏まえて、保護者等への説明会を開催したいと考えております。

以上でございます。小山小学校の通学区域についての説明をさせていただきました。よろしく御審議をお願いいたします。

(伊藤会長)

続いて、おおたかの森小中学校の通学区域について事務局から説明願います。

(中野課長補佐)

次に、議題3「おおたかの森小中学校の通学区域について」御説明いたします。おおたかの森小学校は、つくばエクスプレス、東武野田線(東武アーバンパークライン)の流山おおたかの森駅の東側、西側で、東初石5丁目の一部、東初石6丁目の一部、十太夫の一部、西初石5丁目の一部、西初石6丁目、大畔の一部、市野谷の一部、大字三輪野山の一部、大字加の一部、後平井の一部、野々下1丁目の一部が通学区域となっております。資料の8頁を御覧願います。

おおたかの森小学校は、隣接校の小山小学校の児童数増加に伴い、平成27年4月に開校しました。区域内では、小山小学校と同様に土地区画整理事業が施行され、児童数が増加しております。今後、流山おおたかの森駅北口、西口が整備されますと、東口と同様なマンション等が建設されることが予想され、児童数が急増することが見込まれております。

おおたかの森小学校は、平成27年度695人、22学級でスタートいたしました。平成28年度850人、26学級、推計及び想定値では、平成29年度1008人、29学級、30年度1269人、38学級、31年度1463人、43学級、32年度1670人、48学級、33年度2010人、58学級、34年度2420人、68学級と推計及び想定しております。

おおたかの森小学校の通学区域については、流山おおたかの森駅北口、西口等、今後、整備される箇所が多く、推計及び想定値どおりの数になるかは不透明な部分もありますが、平成28年4月1日現在の住民基本台帳者数や今後、共同住宅等の建設計画等を踏まえると、今後も児童数が増加し、おおたかの森小学校は、増築しても教室不足となることが見込まれることから、平成28年第4回流山市議会一般質問で市長が、「おおたかの森小中学校の児童・生徒数は増加することが見込まれることから、教育の質を確保するためにも、通学区域の見直しと併せて、新設小学校の建設について、計画していくことが必要であると考えています。」と答弁をしております。教育委員会としましては、新設小学校の建設が決定されれば、今後、通学区域の見直しの検討に入り、審議会委員の方々に御審議をお願いすることになりますので、よろしく申し上げます。

次に、おおたかの森中学校ですが、平成27年度176人、7学級でスタートいたしました。平成28年度301人、10学級、推計及び想定値では、平成29年度359人、11学級、30年度435人、13学級、31年度532人、16学級、32年度650人、20学級、33年度820人、24学級、34年度970人、27学級と推計及び想定しております。おおたかの森中学校は、小山小学校の一部とおおたかの森小学校の通学区域となります。小山小学校、おおたかの森小学校の児童数が増加しますと、数年後にはおおたかの森中学校の生徒数が増加しますことから、平成32年度以降150人以上の増加が見込まれております。

おおたかの森中学校の通学区域については、新設小学校の建設やおおたかの森小・中学校の平成29年度推計及び想定値を踏まえることとなりますが、見直しを検討するようになると考えておりますので、よろしく申し上げます。

以上で、おおたかの森小中学校の通学区域について、説明をさせていただきました。よろしく御審議をお願いいたします。

(伊藤会長)

小山小学校、おたかの森小学校は、後にして、最初説明があった(1)について、御意見、質問がありましたらお願いします。

(田根委員)

流山小学校は、1000人を超える学校になります。校舎の収容人数は、教室が決まっておりますので、単に児童数だけで、大丈夫とか、増築とか、線引きを考えるようになると思いますが、それぞれ学校の器は違うので、そのあたりも合わせて考えていかないと厳しいのかと感じを受けました。流山小学校は、来年度は一杯です。現在は、870人、来年度は、915～930人になると思っております。それでも一杯の状況です。単に児童生徒数だけでは、心配なところを感じております。

(山口課長)

田根委員の御指摘は、教室の数だけではなく、例えば、校舎内の学年の配置を考えるようになります。想定する学級数と校舎内の配置していく学級数の関係では、教育委員会の想定より学校の考えでは早く不足する状況が出てくる可能性があるとの話なのです。次年度の各学校で考えている教室配置について、現在、調査を実施し、今後、対応が必要となる時期をたずねており、使用可能教室を早めに把握したいと考えております。

(伊藤会長)

器の問題は、難しいと思います。

(長岡委員)

西深井小学校等は、1クラス、2クラスです。児童数が多い学校からスクールバスを活用してはと、以前、話したことがあります。今後の問題として、1クラス、2クラスだと、学校教育の中で、あまり人数が少ないと学校教育の中で弊害があるのか、ないのか。流山おたかの森駅、南流山駅周辺の問題ばかりではなく、小さい学校の対応はどんなのですか。

(小澤部長)

スクールバスについては、新市街地地区の開発に伴い習志野市をはじめ県内で実際に行っているところを視察しており、視察先では路線バス等を利用しています。流山市の場合、路線バスが通ってなく、子ども達

を安全に降ろす場所の確保がなく、例えば、西深井小学校の場合、流山街道沿いは難しく、松戸野田有料道路側になるのではないかと思います。現場を見ても、用地の確保が容易ではありません。経費の問題も大きく、1台あたり約800万円位の費用がかかり、新市街地地区では、運行の際は1台ではなく10台位必要となり、それを分散するような検討をしましたが、難しかった。学校の人数が減少し、単学級になりますと限られた交友関係になります。例えば、中学校では、小規模特認校のように、生徒が少ない分、一人一人の職員の目が届く、あるいは学校施設を広く使えるとして八木中学校、西初石中学校が、市内全体から生徒を募集している体制をとっています。野田市も単学級の小学校でも小規模特認校のように市内全域から集めています。子どもが少ないので、グラウンドや体育館を伸び伸び使える利点があり、理解のある家庭から入学できるような方法をとっています。流山市では小規模特認校制度を中学校で取り組んでいます。小学校での取り組みも考えることができます。今の段階では、子どもの数は、先を見てからでないと、どんな状況になるか分からないので。通学区域は、地域コミュニティ等の関わりが出てきます。他地区からの子ども達が多くなった時に、例えば、西深井小学校であったら、そこにいる子ども達が、新市街地地区の子ども達がどっと来た時に、自治会や地域との繋がりなど、いろんな要素があって、スクールバスの利用については、もう少し研究をしないといけないものと考えております。

(長岡委員)

地元のPTAのお母さんは、1クラスなので、是非、来てほしいとの要望の声が総意を反映しているか分かりませんが、いろんな所から来てほしいという気持ちは持っているような声を耳にしました。

(伊藤会長)

忘れてはいけない視点だと思います。流山市全体の人口が増えている中で、突出して増えている所と減少している所がある事実をわきまえていくことが大切だと思います。

(小泉委員)

小山小学校が増築していますが、どの程度のクラス増になりますか。

(中野課長補佐)

特別教室を含んで17教室、会議室、職員更衣室3室を増築となります。

(小泉委員)

子どもが増えれば、先生も増えます。職員室に入れなくなり、他の場所に職員室を作るのか。

(山口課長)

校舎増築には、職員室はありませんが、今の職員室を改修して対応できると考えております。

(伊藤会長)

現在、先生は、職員室で仕事ができますか。

(山口課長)

確保されています。

(小澤部長)

今後、教員数も増えてきますので、現在の職員室を改修します。

(小泉委員)

校庭が狭く、運動会も厳しい状況です。

(清水委員)

推計で、小山小学校やおおたかの森小学校の34年度の人数が出ていますが、大型マンション計画が決まっている中で、どれ位の子どもが入ってくるか。その数字は、どのように出すのか。また、新しい学校の場所の候補地は。

(中野課長補佐)

マンションの0歳児から11歳の出現率は、新市街地地区内に建設されたマンション実績を踏まえたものです。26年度に建設された168戸のマンションでは、0歳から11歳までの入ってきた子どもが89人で、戸数の53%です。27年度に建設されたマンションは、257戸で、153人で60%でした。28年度推計では、平均の57%の出現率により推計しています。その場所にもよると思いますが、南流山のマンションは、345戸で、218人で、63%になります。実際、53%から63%の幅があります。平成26年度の推計では54%の出現率でしたが、28年度推計では57%とし、0歳児から11歳児の年齢構成は、0歳児が28.5%、1歳児が23.1%、2歳児14.5%、3歳児11.6%、4歳児5.8%、5歳児3.7%で、小学校に入る前の割合が、8

割を超えており、マンションが建設されてもすぐに教室が不足することが見込まれない状況です。建設後、3年以降に多くの子どもが入学する状況と考えております。このような実績を基に児童推計をしております。流山おおたかの森駅北口、西口は今後整備されますが、平成31、32年度にマンション建設されることを前提に推計をしています。平成29年度推計では、関係部署との連携の中で、マンション計画の時期が、変われば若干、数字がズレてくると思います。教育委員会では、住民基本台帳の登録数を重要視しています。例えば、28年4月2日から29年4月1日に生まれた子どもは、35年度に1年生として入学することになります。この年代が6年後に、何人増えて、小学校に入学してくるか想定しています。マンション建設の時期、戸数がはっきりしていれば、推計の出現率が54%、57%、62%であれば、それほど差は大きくないと考えております。平成28年4月1日現在の住民基本台帳登録者数は、おおたかの森小学校が約1300人、小山小学校が約1700人で、想定値は、おおたかの森小学校は2420人小、山小学校が1980人を想定しています。おおたかの森小学校は、駅前の商業地が今後、整備されることから、推計及び想定値を検証する必要があると思っています。東口の商業地にマンションが建っていることから、北口、西口についてもマンションが建つことを想定して推計及び想定値を作成しており、計画がはっきりしていない箇所については、居住系が建つことを前提に数字を出しております。新設小学校の用地、規模については、これから庁内で協議します。

(小澤部長)

御存知かと思いますが、公立小中学校の適正規模は、国の基準で12学級から18学級です。小学校の場合1学年、2クラスから3クラスが適正と言われ、25学級以上は大規模校、31学級以上は、過大規模校になります。これまで日本で一番児童数が多い学校は、平成25年10月で、神戸市立井吹東小学校が約1600人で、48クラスになりました。現在は、2つの学校に分かれておりますが、昨年、職員2人が、その当時の学校運営や施設を視察しております。県内では、船橋市立葛飾小学校が平成26年度に1455人、44学級で、県内で一番です。国では、学校規模で、教育の質を確保できる一つの目安は、48学級がマックスと言われています。例えば、小山小学校は、グラウンドの事もあります、

市内の小学校の中で体育館の敷地面積が一番広い。体育の授業でも、年間計画で入れ替え等の工夫をして教育の質を確保しております。48を超えてしまうと、いくら体育館やプールの使用を工夫しても難しい。おおたかの森小学校については、想定値で68学級であり、いくら校舎増築しても教育の質を確保することができないので、新しい学校を作る結論に至りました。学校を一つ建てるには、2haの土地が必要になり、おおたかの森周辺は、今、土地の値段が高く、予算的なことを含めながら、関係部署と調整を図り検討しております。推計及び想定値は、毎年見直しをし、今度は、29年4月1日の住民基本台帳登録者数を基に、いつ頃までに新設小学校を建てるか、場所もこれから検討します。設計、建設に3年位の準備期間が必要で、はっきりした段階でお知らせしたいと思います。現時点では、作ることは決まっていますが、いつ頃、どこには、今後、検討することになります。

(伊藤会長)

全体として、意見があればお願いしたいと思いますが。

(水嶋委員)

南流山小地区、流山小地区は、平成31年度は、1000人位になります。通学区域審議会に出席させていただいておりますので、中学校区で、学区を単純に考えて、武蔵野線を境に鱈ヶ崎小、南流山小でいいのではないかと。自治会長さんからも話しがたまに出ますが、鱈ヶ崎小、南流山小の区切りをして、同じような人数で、南流山小学校は、マンションが建っていますが、線を境にすることにより鱈ヶ崎小も100人程度増えますが。校舎のキャパは分かりませんが。流山小、流山北小も自治会長や町内の方と話し合いをして学区を調整して、うまく振り分ける。これだけ人口が増えてきて、地域コミュニティもありますが、新しい時代ということで、学区が変わることで自治会の方と話して調整できないか。もちろん、おおたかの森地区は、キャパが一杯で新しい学校を作らなければいけないと市民の皆さんは、よく分かっていると思いますが。例えば、新川小等の学区を変更して、人数が多くなるように学区の境をもっと遠くなって、スクールバスを検討するとか。検討するのは難しいとしても、中学校は自転車通学もあり、人口も増えておりますので、思い切って、通学区域を調整してはどうかと思います。

(井田委員)

八木北小学校は、20年以上昔、1000人以上いた学校でした。その時と校舎は、変わっていません。学区を見ても、昔、八木北学区だったのが小山小になったりしています。八木北学区の北部の青田や駒木台は、柏市に越境しています。自治会長に聞くと、青田から八木北小学校に行っていないのに教育懇談会等の通知があると聞いております。それぞれの学校、その時のクラス編成が時代により違っていたと思います。ある所を利用するのも考え方があっていいと思います。八木北小学校は、4クラスで、教室は余裕があり雰囲気もよく、ある施設を考えていただくことも有りではないかと意見を述べました。

(伊藤会長)

水嶋委員の発言の思いきった通学区域の変更はあり得るか、井田委員の八木北小学校を例にあげた既存の施設の更なる活用は。

(小澤部長)

八木北小学校を含めて既存の校舎を活用することは考えております。通学区域については、市議会でも御意見をいただいている、自治会や生活コミュニティ、子どもの学校生活を含めて影響が大きいことから、いろんな事を含めながら検討すべきと考えております。通学区域の環境が変わるとか、学校の適正規模を守るため統合をすることになりますが、流山市は統合は有り得ない。後は、新設校を作るか、通学区域の変更をすることになります。当然、通学区域については、やむを得ない場合は、やらざるを得ないと思いますが、推計、想定値を見極めながら、今、貴重な御意見をいただきましたので、子どもの学校生活、教育の質を守るために、やらざるを得ない状況になれば、通学区域の変更についても検討すべきと考えます。教育委員会としては、いろんな影響を考えますと、やらざるを得ない状況な時に、通学区域を検討したいと考えております。

(伊藤会長)

推計、想定値の試算は難しいと思います。そのための準備をしなければいけないため、審議会で審議すると思います。

(小澤部長)

先ほど、都市軸道路の北側を八木北小学校へと変更する検討案を出させていただきましたが、そうなった場合、八木北小学校は今後、どうな

っていくかについても、児童数、学級数が係ります。八木北小学校は、校舎増築を繰り返し、校舎が複雑で、使いやすくするための検討も必要になります。

(井田委員)

子どもが2人いた時に、参観日に校舎内を移るのが大変でした。

(小澤部長)

給食の時、段差があり食缶を運ぶ時が大変です。また、学校訪問時に、八木北小学校は、非常に複雑で分りづらいと言う方もいます。

(吉田委員)

東初石5、6丁目自治会は、2つの小学校に通学し、中学校も2つに通学しています。そして、八木北小学校に行くようになりますと3つになります。小学校からの通知や地区社会福祉協議会への参加もあり、元は、小山地区社会福祉協議に参加していましたが、現在は、6丁目の児童が多くおおたかの森小学校に通学していることからおおたかの森地区社会福祉協議会に参加しています。5丁目、6丁目は同じ自治会で、隣りの自治会の十太夫、駒木もあり、いろんな絡みがあります。自治会では、自治会長、副会長3人で交代して対応しております。小学校も中学校も同じ日に卒業式、入学式を実施され、役員は大変です。通学区域を分けるのも結構ですが、自治会内のことも考えていただきたいと思えます。

(永元委員)

学校区により民生委員の区域も変わってきます。

(香月委員)

具体的に、防災訓練を実施する時に、学区が分かれていると、通学している学校に行くため、通学していない学校での防災訓練には参加しないことになり、同じ自治会の中で分かれてしまう。地域のコミュニティが切れてしまい、通学区域を簡単に考えるべきではないと思えます。

通学区域を変える時に、何年前から準備するのか。対象者に周知して、3年後に変更するのか、この4月から変わるのか。

(中野課長補佐)

地域コミュニティに関しては、市議会や市民の方々には、地域の方々に支えられて学校は成り立っていると常々、申し上げます。同じ自

治会の中で、2つの学校に通学することは好ましいとは思っておりません。現実的に、急増している地域については非常に判断が難しいことは御理解いただきたいと思います。東初石5、6丁目自治会は、今回3つになる可能性が高いので、難しいと思います。教育委員会としても、出来ることであれば、子ども達が安全で安心して通学することができる通学区域であって、地域も一緒の学校に通学できればいいと考えております。過去に、子どもが急増している地域で、学校を変更したこともあります。また、逆に、2年前には元に戻したところもあります。一度決めたから通学区域は見直しをしないことではありませんが、頻繁に見直すことは好ましくないと考えております。周知の件については、出来れば早く周知したい。特に、土地区画整理事業区域内は、住宅等が建設される前に周知したいと思っております。想定値は、児童数をよむのが非常に難しいので、少なくとも3年前にはお知らせしたい。平成29年度の推計及び想定値が、今回の推計及び想定値にそれほど差がなければ、説明会を開催したいと考えております。平成32年度からにした理由は、想定値を踏まえて、校舎増築により平成31年度に在籍している児童が6年生まで小山小学校に在籍することができると見込んだことからです。平成32年度に入学する1年生は、小山小学校への受け入れは難しいことが予想されますことからです。ただし、兄弟案件等いろいろあります。兄、姉が在籍している場合は、別々の学校に行くような事がないように柔軟に対応したいと思っております。

(小泉委員)

おたかの森小中学校の校舎増築は、いつ頃で、どこに、どの程度の増築になるのですか。中学校だけですか。

(山口課長)

計画では、プール側に増築することで小学校を想定し、当初は、12教室位と考えていましたが、18教室を増築する予定で平成29年度予算に計上いたします。

(小澤部長)

12教室で予定していますが、教室数については、平成29年4月1日の住民基本台帳登録者数を基に、推計及び想定値により、計画して設計工事に入る予定です。

(小泉委員)

おおたかの森小学校の1年生は、教頭先生からは205人が確定していると聞いていますが、後、何人増えるのか。

(中野課長補佐)

1年生は、205人で見ています。それ以降のデータは、ありません。推計では、1年生は199人で、それほど大きな差はありません。

(山口課長)

推計では、199人ですが、実数として205人で、今日も2人の転入があり、205人で収まらない可能性が高いと考えています。

(長岡委員)

小山小学校は、学校だよりで1年生は、230人で7クラスの予定になっています。

(山口課長)

推計では、242人です。

(中野課長補佐)

小山小学校の平成28年12月の実数で見込んだ数は、238人です。推計では、242人ですので、推計とそれほど差はありません。マンションばかり気になると思いますが、戸建て住宅も多く建っております。戸建て住宅1件建った時に、0歳児から11歳児が何人入ってくるかを調べたところ、土地区画整理事業内でも場所によって出現率が違い、おおたかの森小中学校周辺は高い状況です。このような状況を踏まえて推計及び想定値を作成しています。いかに教育委員会が、マンション計画や戸建て住宅がどれくらいのスピードで建設されるか、アンテナを高くして情報収集して、必要な対策をとっていくかです。

(伊藤会長)

想定するのは難しいですね。実際、今日の資料は、いつ公開するのですか。

(中野課長補佐)

児童生徒数推計及び想定値については、2月6日に市議会議長、副議長に説明し、2月7日に市議会議員の方々に説明した後、ホームページに掲載する予定です。

(伊藤会長)

他に質問等がなければ、その他として事務局、何かありましたらお願いいたします。

(中野課長補佐)

通学区域審議会の委員の方々には、平成29年5月頃に、29年度の児童生徒数推計及び想定値を踏まえて、教育委員会の案をお示し、御審議をお願いする予定です。その後、保護者等への説明に入らさせていただきたいと考えております。

(伊藤会長)

事務局の皆さんには、審議会委員の方々からの意見を是非、市議会議員や市民の皆さんに伝えていただいて、是非生かしてほしいと思います。本日は、大変お疲れ様でした。